

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.3

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

心身をリフレッシュ —健康体操教室を開催—

岩手大学は、平成24年2月15日に、釜石市体育協会様とともに、東日本大震災で大きな被害を受けた釜石市の住民の方々の心身の健康を促進することを目的とした健康体操教室を釜石市花露辺(けるべ)地区漁村センターにおいて開催しました。

この事業は、文部科学省の「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(スポーツ・レクリエーション活動の支援)」の支援により、被災した沿岸部の9市町村に地域スポーツコーディネーターを配置し、行政や地元体育協会とともにスポーツ・レクリエーション活動を通じた地域コミュニティの再生に取り組むものです。

花露辺地区では、津波により家屋を失い仮設住宅に転居した住民や、家屋倒壊は免れたものの被害が少なかったために十分な支援を受けられていない住民がおり、地域のコミュニティ再生や生活支援が課題となっていました。会場では、スカットボールというレクリエ

ーションスポーツを行うとともに、釜石市保健センター様の協力を得て保健師による生活や健康上の相談会も実施しました。本イベントでは簡単な運動と健康相談ができるとあって多くの方に参加いただきました。また、参加者どうしの交流が促されるとともに、特に冬期間で引きこもりがちな高齢者の方々にとって、心身をリフレッシュする絶好の機会となりました。



スカットボールに興じる参加者



健康相談の様子

「農地復興ワークショップ—耕作土壌の回復に向けて—」を開催

三陸復興推進本部農林畜産業復興推進部門(農地復興班農耕回復グループ・高収益型農畜産復興支援班園芸グループ)では、三陸沿岸の農地復興を目指すため、塩害対策の理論等を紹介し、地域のニーズにあった耕作土壌の回復について検討することを目的に平成24年3月1日に「農地復興ワークショップ—耕作土壌の回復に向けて—」を開催しました。

前半の講演では、(独)国際農林水産業研究センターの小沢聖氏から「溝底栽培、粉殻培地など耕種的な塩害対策の提案」と題した基調講演が行われるとともに、(独)農研機構近畿中国四国農業研修センターの望月秀俊氏、同機構東北農業研究センターの関矢博幸氏、

冠秀昭氏から「農地土壌における塩類動態—理論と実践—」と題し、農地土壌における除塩の可能性、作物への塩類の影響、除塩に際しての注意・工夫などが紹介されました。後半は、講演や前半での提言を受け、「耕作土壌の回復に向けて」をテーマにワークショップを行いました。

今後は、本ワークショップで検討された被災農地におけるインフラ復旧までの農地有効利用策、長期的な園芸農業の復興支援策などの課題を平成24年度以降に反映させていく予定です。



学生のチカラ

「アート」と「つながり」の力を信じて

インタビュー

高村玲奈(人社2年)、菊池彩友未(人社2年)
藤原かおり(農2年)、吉田美記(人社4年)

「アートチャリティー∞いわてのて」は、教育学部3年の齊藤悠さん率いる実行委員を中心に、NPO、商工団体などから集まった総勢100名以上のメンバーによるプロジェクトです。学生だけでなく県内外の社会人、プロの芸術家など幅広いメンバーが、「アートの力」で日本を元気に!を合言葉に、美術・演劇・音楽・雑貨・書道など様々なジャンルで活動を行っています。平成23年7月には県内各地のカフェやギャラリーで、展覧会、ワークショップ、チャリティーコンサートなどのイベントを一週間開催し、訪れた人の心に安らぎと温かな気持ちを届けました。

「アートによって革命的な何かができるわけではないけれど、アートを通して、震災で傷ついた人々とちょっとした安らぎや安心感を共有していただけたら…」と語る代表の齊藤さん。この言葉には、活動において大事にされた人と人との「つながり」に対する想いが表れています。来場したお客

さんからも、「学生が何かを起こしていることで元気をもらった」と言われ、嬉しかったそうです。

齊藤さんの作品「アートチャリティー∞いわてのて」のイラストの女の子のリボンが、∞(無限)を表すのだそうです。みんなで手を取り合って無限につながっていこう。絵に込められた想いは、きっと被災者の皆さんの心にも届いたのではないのでしょうか。



「いわてのて」のシンボルマーク。この絵には齊藤さんの絵を見て元気になってほしいという想いが込められている。



右から代表の齊藤悠さん(教育3年)と副代表の千田真弓さん(大学院工1年)

岩手大学三陸復興プロジェクト

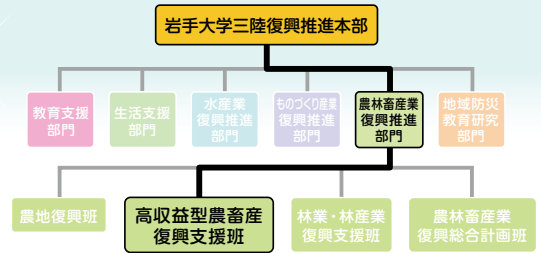
岩手大学では岩手大学三陸復興推進本部を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、震災による餌不足や電気の停止などで繁殖機能が低下した牛について研究を進め、畜産復興を目指す取り組みについてご紹介します。

「被災地の畜産農家と連携した、牛胚の定時移植と超早期妊娠診断技術の開発による畜産復興」

岩手大学三陸復興推進本部 農林畜産復興推進部門・高収益型農畜産復興支援班・畜産グループ長 平田 統一(農学部FSC御明神牧場 助教)

プロジェクトの目指すところ

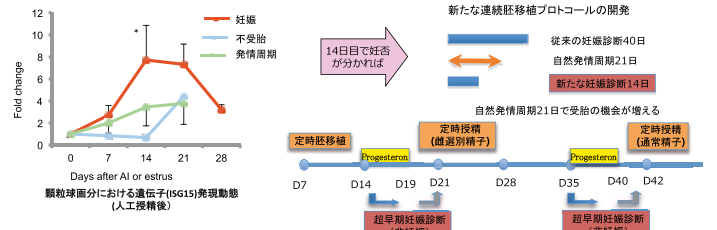
未曾有の被害をもたらした東日本大震災から1年が経過しました。日本中、世界中から多くの応援をいただき、懸命の復興努力がなされてきましたが、真の復興のためにはまだまだ不断の努力が必要です。畜産業における地震や津波による直接被害は、漁業などに比べ軽度ではありましたが、震災に伴う物流や電気の喪失は、「餌不足」、「搾乳したり牛乳を保管・運搬することができない」、「暖房不足」、「治療薬の入手困難」など2次的被害を引き起こし、たとえば東北3県で水死、凍死、餓死した鶏の合計は450万羽を越えています。これにも増してやっかいな問題は原発事故です。岩手県の一部の山野に降り注いだ放射能は今もって農家を悩まし、たとえば自分の畑や田んぼの草やワラを牛に給与することすら禁止されている地区があります。山野丘陵に恵まれ、放牧を主体とした安全・安心な畜産を培ってきた沿岸地域・東北の畜産業が風評被害に曝されています。本プロジェクトは、震災時の餌不足などを契機に繁殖障害(妊娠できない)状態に陥った牛を妊娠させ、同時に、より高品質の子牛を短期間に増殖させる技



術を活用して、高収益型の畜産復興を目指します。このことにより、地域の自然環境を守る家族経営の畜産農家が活躍できる技術開発を夢見ています。

現在までの成果

久慈の酪農家から長期不受胎の黒毛和種2頭を御明神牧場に約2ヶ月預かり、この間体外受精技術を活用して価値が高い牛胚を生産しつつ、本牛を受胎させて農家に返しました。宮城や山形の農家等とも同様の試みを行っています。胚移植後のできるだけ早期に妊娠診断できれば、不受胎の場合より早期に次の対策をとることができ、結果として農家経営を有利にできます。現在遺伝子発現を活用した超早期妊娠診断の可能性を検討しています。また、今後の展開として、平成24年度は、宮古市の畜産農家グループとも同様の取り組みを行っていく予定です。



釜石サテライトだより

東日本大震災から1年が経過し、沿岸地域では被災した企業や商店の再開が進んでいます。本来の元気な姿を取り戻し以前の活気ある街が復活するために、釜石サテライトでは地元からの声を大切にしています。

岩手大学では平成25年3月に三陸水産研究センター(仮称)を建設予定であり、今後はセンターを中心に水産業の復興に取り組んでいきます。また、ものづくり産業に関しては、釜石・大槌地域産業育成センター復旧にあわせて設備を導入し、そちらを中心に復興支援を行います。そこで、釜石・大槌地域産業育成センターに導入予定である設備や導入後の使用等についての意見交換会を2月8日に開催しました。参加いただいた地元企業からは利用方針や設備の仕様等様々な意見をいただきました。なかには厳しい意見もありましたが、今後の本学の復興支援に向けて非常に有意義な意見交換となりました。翌週2月15日には水産加工業者や市町村、研究機関による車座研究会も開催しました。水産業は沿岸の基盤産業であり沿岸地域復興には欠かせないものです。参加いただいた皆様の意識も非常に高く、水産業復興に向けた

方向性の確認とそれに伴う具体的な事業についてと話題は発展していきました。また釜石市が展開を検討しているスマートグリッドについても活発な意見交換がなされ、まちづくりともリンクした水産業の再建が三陸復興のカギとなりそうです。

また、沿岸地域の女性を対象に新規事業参加のきっかけとなることを目的とした「岩手大学女性起業家・事業化セミナー in 釜石」を開催しました。本学が行っている産学官連携の取り組みを紹介するとともに、県内女性起業家の皆様に自身の起業の経緯等についてご講演いただきました。今回が初めての企画でありましたが多くの方に参加いただき、また実際に講師とコーディネイト業務での連携に発展している参加者の方もおります。平成24年度以降も継続し、県北、県南と場所を変えながら沿岸の多くの女性に参加していただけるよう検討しています。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 釜石サテライト

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階
TEL:0193-22-4420 E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp

Information

平成24年度の東日本大震災で被災した学生への経済的支援

岩手大学では、東日本大震災で被災した学生に対して、次のような経済的支援を計画しています。

入学試験	対象者の入学検定料を免除します
入学	対象者の入学金を免除します
在学中	授業料減免 被害の程度に応じて、対象者の授業料を免除又は減額します。
	寄宿料免除 学生寮に被災者用の入居枠を設け、寄宿料を半年間免除します。
	奨学金 本学及び民間財団等による奨学金の給付制度があります。 ※返済不要
卒業	

支援の対象となる者の条件や申請方法等、詳細については大学ホームページで公表していますので、ご覧ください。

岩手大学HP=http://www.iwate-u.ac.jp/attnn/keizai-shien_2012.shtml

※被災=家屋の全半壊、主たる家計支持者の死亡又は家計急変、原簿被害など

お問い合わせ

- 検定料 入試課 TEL:019-621-6064
- 入学金・授業料・奨学金 学生支援課奨学グループ TEL:019-621-6882
- 学生寮 学生支援課学生支援グループ TEL:019-621-6060

編集後記

少し寒さが緩んだかと思われた3月でしたが、最近はこの最後とばかりに雪が舞う日々が続いています。岩手大学は、3月23日に2年ぶりとなる卒業式を開催しました。卒業生にとってもこの1年は、自分に何ができるのか、何をすべきか、悩み、行動した学びの年になったのではないのでしょうか。4月には新入生という新たなパワーを加えて、今後とも一層の「オール岩大パワー」を震災復興のために発揮していきたいと思ひます。

総務広報課